

体の中を映像化して病気を診断

画像機器・診断の発展は目覚しく、あらゆる医療分野において役立っています。画像診断から非侵襲治療まで幅広い診療内容を受け持ち、最先端の技術を用いて各診療科を総合的にサポートしています。

診療体制

検査による診断・治療の件数は年間CT:35,000件、MRI:13,000件、IVR:700件、RI:5,500件です。教授以下10名のスタッフが担当。画像診断、IVR、超音波やCTによる生検、放射線治療科との協力で同位元素内服療法など幅広い領域をカバーしています。

対象疾患

CT、MRI、PETを含むRI(核医学)検査、胃・大腸透視、超音波、血管造影、IVR(インターベンショナルラジオロジー)などにより、あらゆる疾患の検査・治療を行っています。

診療、研究実績

一般的な診療についての実績

各診療科の高度な医療を支えるため、各領域の専門家が集まりカンファレンスを行い、個別症例についての詳細な検討を行っています。緊急CTは随時試行しており、急性期脳梗塞や脊髄損傷などの緊急MRIにも迅速に対応しています。

高度医療の取り組み・研究

- ①マルチスライスCTによる画像診断
64列装置を含む5台のマルチスライスCT装置による、高精細な3次元再構成画像を作成。脳腫瘍や腹部腫瘍の術前シミュレーション、循環器疾患の評価にも威力を発揮しています。
- ②MRIによる画像診断
腫瘍浸潤、心筋や子宮機能などの動態評価など、進化した画像診断を行います。脳神経や腹部において3テスラのMRI機器による最先端研究。拡散強調画像などの最新の撮像法により病変の検出力の向上を目指します。
- ③PETによる画像診断
PET画像をCTやMRIといった他の画像との融合画像をITソフトで作成、PET専門医により精度の高い診断を行います。
- ④画像を用いた低侵襲治療(IVR)
X線透視、USなどの画像を用いてカテーテル治療、腫瘍焼灼術、ドレナージ術などを行います。



手術中の安全と安心、痛み疾患の治療

さまざまな手術を安全に受けていただけるよう患者さんの体の状態に応じて最適な麻酔を提供します。また痛み疾患に対して、専門的に外来および入院治療に取り組んでいます。

診療体制

特殊な手術の麻酔管理は専門のスタッフが担当します。痛み疾患の治療は週3回ペインクリニックの専門スタッフが担当。重症患者の集中治療や日帰り手術の麻酔管理にも中心的なスタッフを派遣しています。

対象疾患

手術麻酔はすべての手術対象疾患が対象です。ペインクリニックは癌性疼痛、帯状疱疹後神経痛、頭痛、三叉神経痛、頸肩四肢痛、腰下肢痛、複合性局所疼痛症候群、末梢血行障害など。

診療、研究実績

一般的な診療についての実績

痛み疾患に対して特に各種神経ブロックを中心とした治療を行っています。

高度医療の取り組み・研究

- ①肝移植の麻酔
重症肝疾患に対する生体部分肝移植、脳死肝移植の麻酔管理を行っています。
- ②体腔鏡下手術の麻酔
胸部、腹部などの疾患に対し体に負担が少ない手術法の麻酔管理を行っています。
- ③覚醒下開頭手術の麻酔
できるだけ脳機能を温存させるために意識のある状態で頭蓋内の手術ができるようにしています。

